

## 江南市立図書館に係る指定管理者の指定についての三輪陽子議員の反対討論

10 万人都市にふさわしい新しい図書館の建設は市民が長年待ち望んだもので昨来年度の開館を多くの市民が期待されています。市の知の拠点として、市民に愛され、市民とともに歩む図書館になるためには何が大切か。私達はこの新図書館の計画が持ち上がった時から多額の税金を投入する施設であるので、新図書館の設計、建設、運営に多くの市民の声を反映すべきであると言ってきましたが、残念ながらその声が届いていません。

今回株式会社図書館流通センター（通称 TRC）が指定管理者に選ばれ、協定書が締結されることになりましたが、なぜ TRC が選ばれたのか、どんな運営の特徴があるのかなど市民に知らされる機会はありません。

もともと利益を生まない無料で使用する図書館運営を民間にまかせる指定管理は図書館運営にはなじまないものと考えます。

近年財政難で自治体の支出削減のために、市立図書館に指定管理者制度を取り入れる自治体が増えて、2021 年度以降導入予定の自治体も入れますと、300 自治体で全国 815 自治体の 37% になります。しかしながら、一度指定管理制度を導入した図書館を直営にもどしている図書館も 19 館ほどあります。（2020 年図書館協会による調査）

指定管理者制度の導入により、開館日、開館時間の延長など市民にとってメリットもありますが、経費削減が人件費カットになって、専門的な知識やその地域に詳しい職員が減らされるなどサービス低下を招くこともあります。3年間や5年間という期限があるため、指定管理業者が変わる時にうまく引継ぎができないという可能性もあります。

江南市ではすでに長く指定管理制度を導入していて、役所内で図書館運営について詳しい人がいないので、直営に戻すのは難しいとは思いますが、せめて館長を公募するなどして、地域に根差して長く関われる方にリードしていただけるような取り組みが必要だったのではないのでしょうか。

この協定書、仕様書で市民が望んだ、だれもが何度も足を運びたくなる図書館運営になるのか疑問点がいくつかあります。

まず新図書館の業務仕様書では人員配置について、常勤責任者 1 名、窓口責任者 1 名、従業員の 60% 以上の司書資格しか明記がなく、必要な人員配置、安定的な人員体制の継続というあいまいな表記で TRC まかせとなっているところが心配されます。この規模にあった市民サービスがしっかりできるための人数を明記すべきではないのでしょうか。

また事業内容についても現図書館からの発展があまりなく、特に市民と一緒に行事などの企画をすすめていく姿勢がみられないのが残念です。

苦情、要望処理についても指定管理者での処理となっていて、市が市民の要望を受けて進めていくとする姿勢が弱いように思います。

さらに市全域で誰もが読書できる環境の整備がうたわれているにもかかわらず、分館が古知野北公民館だけというのも基本計画策定時から後退した仕様といえます。図書館は建物ができたらそれでよいというものではありません。建物を作った後いかに市民が関わってその町にふさわしい図書館として発展させていくかが大切です。真に市民の文化・知の拠点、市民交流の場となるように、TRC まかせではなく、市民の声、ボランティアの活動などを取り入れた行事や事業ができる図書館運営が必要であることを申し述べて、議案第 17 号の反対討論といたします。